

編集委員会から

日本食品工学会誌の編集委員長を2015年度から担当しております。

お気づきと思いますが前号から体裁を変更し、前半部分を論文誌、後半部分を会員への会誌と分けています。その理由は以下のとおりです。

国際的な論文誌として承認されるためには、例え和文の論文でも英文論文と同様なスタイル（図表の説明文と図表中の説明は英語等）が必要とされます。一方で会員にタイムリーに提供する情報については日本語化されていたほうがわかりやすいことも事実です。今までは、この2種類の論文・記事が混在しており、国際的な論文誌としては不完全な形態でした。また、会員への情報提供誌としても不十分でした。

そこで、国際的な論文誌としての論文を前半にまとめます。これら論文は、今まで同様にJ-STAGEにより世界中にオープンで公開されます。オープンアクセス（誰でも自由に閲覧・ダウンロードすることができる）は、世界的な流れであり、公的資金を使った研究成果は広く公開されるべきであるという考えに基づいています。残念ながら、多くの学術雑誌はオープンアクセスとはなっておらず、著者が高額なオープンアクセス料金（20万円近いこともあります）を払った論文のみがオープンアクセスとなっているのが現状です。ただし、米国をはじめ研究資金提供元が研究成果のオープンアクセスを必須としていることもあり、今後、日本でもオープンアクセス化が進んでいくと予想されます。日本食品工学会誌は数少ないオープンアクセスジャーナルです。このメリットを生かして、国際的に認知されるジャーナルを目指していきます。皆様の投稿をお待ちしています。

記事や解説等の会誌部分については、J-STAGE上では公開せず、会員に配布される冊子でお読みいただくこととなります。将来的には、学会ホームページに会員向けアーカイブを作成することも考えています。

また、会誌部分の充実を図るために、本号よりシリーズ「シニア・ミドル・ジュニアのつぶやき」、トピックス等を掲載することになりました。第1回目の「シニアのつぶやき」は安達前会長に執筆していただきました。日本食品工学会の設立経緯についても触れていただいております。大学における食品工学研究小史ともなっています。みなさまの「つぶやき」をお待ちしておりますので、ご希望のかたは、事務所までご連絡ください。

シニア・ミドル・ジュニアのすべてのつぶやきをお聞きしたいと思っています。トピックスについても投稿をお待ちしています。

(山口大学 山本修一)